

日本の少子化が問題になっていますが、実は世界には出生率1・43(2018年)の日本より少子化が進んでいる国がたくさんあるのです。その代表は昨年の出生率が1・0を切り、0・98という世界最低水準になった韓国です。80年には2・82だったのですが、90年には1・57で日本と同じレベルに、そして00年からはずっと日本を下回っています。もちろん政府も過去10年で約13兆円の少子化対策を行っていますが効果は全くなし。でも1を切るって、考えただけでも大変ですよ。息子が上海の高校に通っていた時、韓国人は死ぬほど勉強するし、親も異常なほど教育熱心と言っていました。が、過剰競争社会では子供はせいぜい一人という意識になるのは理解できません。また香港や台湾も1・13です。こちらもちろん少子化対策を行っていますが効果はでていません。

香港は日本を抜いて長寿世界一です。個人の生存が伸びると減じるリスクが少なくなるので種を多く残す必要性がなくなります。香港や台湾の少子化の要因には政治的な背景もあるかもしれませんが、生物の本能の結果が現れているのかもしれない。6月末に友人たちと久しぶりに香港を訪れます。若いカップルに会う予定なので事情聴取してきます。

一方シンガポールは1・16と低い出生率

少子化はまだ大丈夫!?

文 朝倉匠子 text by Shoko Asakura

ですが、移民導入システムが成熟していて、今後も移民を積極的に受け入れる方向なので、将来の国の人口減を心配していません。ですから積極的な少子化対策は行っていいようです。

意外と思われるかもしれませんが情熱の国イタリア、スペインは1・34、そして年間セックス回数一位を誇るギリシアも長期に渡る経済危機には勝てず、出生率1・38と日本を下回っています。

30年前の日本の少子化対策を見ると今とほとんど変わっていません。世界のいろいろな国が取り組んでも世界的に出生率が減少するという21世紀の大きな流れに抗える対策はなかなか難しいようです。実際出生率の上昇に成功したとされるフランスも政策効果だけでなく、移民の出生率が後押ししている事も要因なのではないでしょうか。

このように日本より少子化の国はそれなりにあります。高齢化は世界一ですが、少子化は世界一ではありません。ちょっとだけですがご安心ください。



Profile

青山学院大学文学部英米文学科卒業
学生時代よりモデルとして活躍、その後テレビ司会、経済インタビューなどメディアで活躍し、渡米。カリフォルニア大学で「NPOマネジメント」及び「ジェロントロジー(加齢学)」を学び、帰国後「エイジングスペシャリスト」として活動を再開。アメリカでの学問を基に健康で幸せに年齢を積み重ねていく「アクティブエイジング」を提唱している。2002年スイスのオメガ社より社会に貢献する女性として緒方貞子氏、黒柳徹子氏、吉永小百合氏らと共に「オメガ賞」を受賞。現在NPO法人アンチエイジングネットワーク理事、母校青山学院大学ジェロントロジー研究所研究員、ヴォーカルグループ「The Fujiyama Sisters」リーダーと多岐の分野で活躍中。